

## コミュニティー・スクールを基盤として 一幼保小中高大・地域と連携した学校づくりー

平成国際大学 針谷 重輝

### 1. はじめに

本論文は、平成 28 年度から平成 30 年度まで勤務した、久喜市立本町小学校にて、校長職として学校経営に当たってきた理念と実践を記したものです。現在は、定年退職後、平成国際大学にて、将来の社会科教員の育成のために学生の指導に当たっています。教職生活の実践の足跡を残していくため、そして、後進の方々に少しでも情報提供の機会を頂ければとまとめたものです。

さて、「幼稚園から大学まで連携して、地域に根ざした学校づくりを推進したい。」これは、生涯学習社会において、校長として着任した久喜市立本町小学校での学校経営の理念です。

今の子どもたちが社会で活躍する頃には、少子高齢化、生産年齢人口の減少、グローバル化、技術革新などの急速な変化の中で、予測が困難な社会の到来が考えられます。このような社会の中で必要な資質・能力は、様々な変化に積極的に適応し、他者と協働して課題を解決していくことと、生きがいを見いだしながら自分の将来像を描き、努力し続ける「生きる力」であるととらえます。

### 2. 課題解決のための仮説

学校経営の柱として、学校教育が取り組む課題について、以下の 2 点を掲げました。

①コミュニティー・スクールを基盤として、地域力を生かし連携して協働参画体制を推進すれば、地域ぐるみの教育環境が整備できる。

②幼保小中高大の連携する協働参画体制を推進すれば、学力向上と人間関係力の向上と将来像を描き努力していく資質・能力の向上した児童・生徒の育成ができる。

### 3. 課題解決のための取り組み

#### (1)学校運営協議会での連携・協働

久喜市では、平成 28 年 4 月に太東中学校・太田小学校・久喜東小学校の 3 校に、学校運営協議会を置く

「コミュニティー・スクール」が発足し、平成 29 年 4 月には、全小中学校が「地域と共にある学校」としてスタートしました。

ところで、コミュニティー・スクールとは、「学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律（地教行法第 47 条の 5）に基づいた仕組み」です。そして、コミュニティー・スクール（学校運営協議会制度）は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。コミュニティー・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。

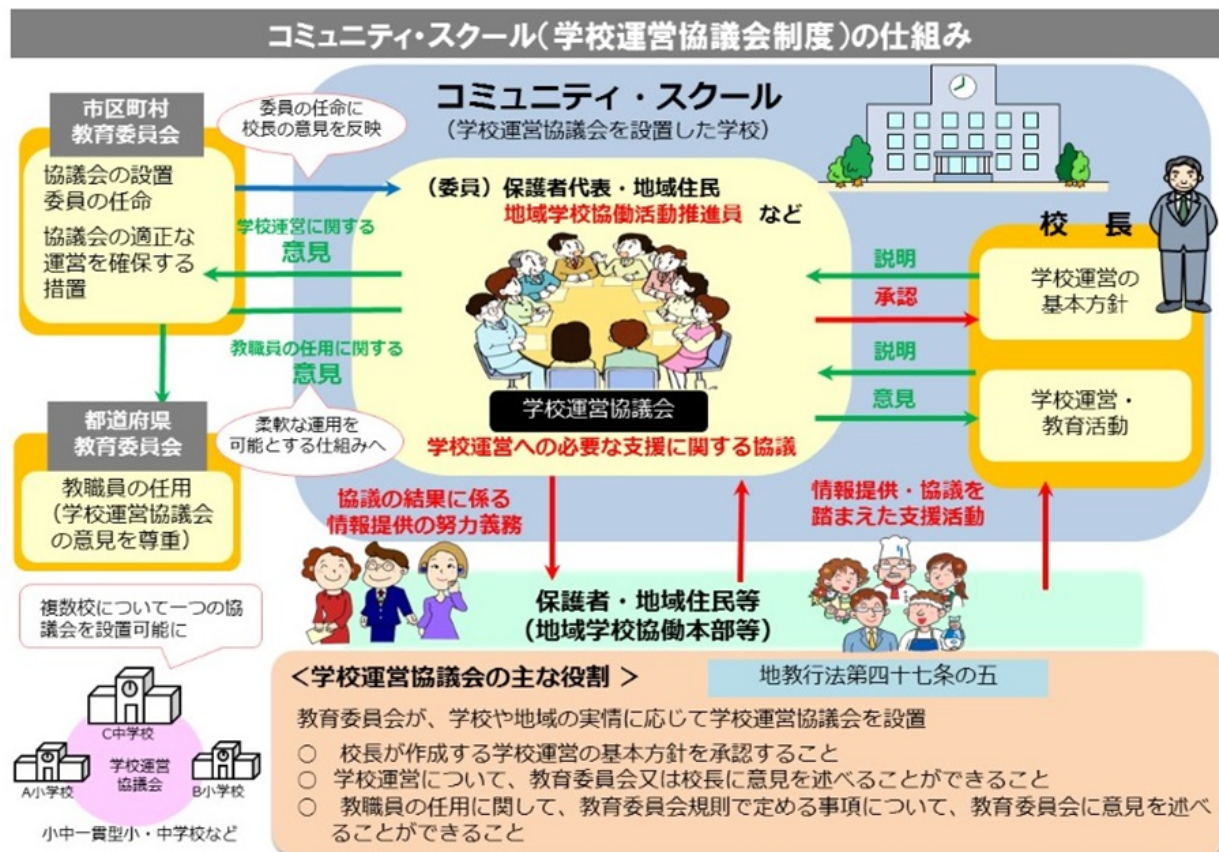
学校運営協議会の主な役割として、

- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
- 学校運営に関する意見を教育委員会又は校長に述べることができる
- 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる

この上記の三つがあります。

めざすべきゴールは、「学校が地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校づくり」です。

そして、学校運営協議会委員の方々は、地域の代表として委嘱され、校長の基本方針のもと、よりよい教育の実現のために協働参画に取り組んでいます。本校では、「今、地域の子どもたちのために、よりよい学校づくりを推進する上で必要なことは何か。」をテーマに、情報の共有と熟議を重ね、協働体制づくりを推進してきました。特に重視したことは、学校応援団の分野拡大と増員です。久喜市内全小学校での取り組みである「放課後子ども教室」の実施委員やサポーターのご尽力を生かしながら、11 講座による地域力の活



出典：文部科学省「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」

用、そして、学校運営協議会委員のネットワークにより、学校応援団は、2分野増加し11分野155名の構成へと拡大しました。特に、樹木の剪定などの環境整備分野と登下校の安全パトロールなどの安全管理分野での新設・規模拡大によって、児童の学ぶ意欲と安心・安全が飛躍的に向上しました。

## (2)異校種間での連携・協働の実践事例

「幼保小中高大の連携により、生涯学習社会における各学校等の系統的な教育活動を推進して、『学力を向上』させると共に、異年齢交流を通して『人間関係を向上』させ、自分の『将来像を描き、努力』し続ける児童を育成しよう。」を合言葉として、取り組んできました。

具体的な取り組みとして、①幼稚園・保育園との交流会では、近隣の年長園児を招待し、1年生との交流会を実施しました。校舎内の学校探検、教室での授業体験、昔遊び交流会をとおして、1年生の心の成長と年長園児の小1ギャップの解消を図ることができつつあります。②中学区の小中学校とは、小中一貫教育を目指した「遷善館学園」<sup>1)</sup>として、学校生活と学習のルールの共有化に努めてきました【資料2・3】。③

進学する中学校との連携では、サマースクールでのボランティア補助教員としての赤ペン先生や運動会での陸上部の生徒のリレーの試走、教職員の合同研修会、小中連携進路学習会等によって、中一ギャップの解消を図ることができつつあります【資料5】。④高等学校や大学との連携では、サマースクールや授業でのボランティア補助教員としての赤ペン先生やプール学習の補助等によって、児童にとっては個別の支援の機会が増えると共に、高校生や大学生との係わりを通し将来の自分自身を考える機会となりつつあります。また、高校生や大学生にとっては、年下の児童にわかりやすく教えることの大切さを実際に体験することをおして、自分自身の将来像を見つめることができつつあります【資料4】。

## (3)異校種間での連携・協働を取り入れる意識調査からの実態

「小学校の社会科で学習してきたはずなのに、何でこの問題がわからないのでしょうか。」これは、ある中学校の社会科教師の言葉です。とても印象的に、脳裏に残っています。また、「中学校の社会科では、地理・歴史・公民」と三分野の学習をしますが、小学校



の学習内容とどのように違うのかが、よくわかりません。」この言葉は、小学校の教師の言葉です。この二つの言葉から、「小・中学校の教員の意識の壁」の存在が浮き彫りとなります。ところで、教員免許状として、小学校のみを所有している場合、また、中学校のみを所有している場合、さらには、小学校と中学校を両方所有している場合もあります。つまり、小学校ならば中学校の、中学校ならば小学校の、他校種の学習内容を理解しているかどうかが問われます。

さらに、中学校区の小・中学校での「小中連携」または、「小中一貫」の意義と取り組みの実践状況です。小・中学校の教職員が、互いの校種の授業を参観する機会を増やすことによって、他校種の授業構成や内容を理解するきっかけとなります。また、小・中学校の教職員がティームティ칭ング授業を実施することにより、他校種の授業構成や内容を実践的に学ぶ機会となります。

## 資料2

遷善館学園小中一貫教育 生活ガイド						
内容	項目	げんきよく 第1・2学年	はっきりと 第3・4学年	心をこめて 第5・6・7学年	T・P・Oにあわせて 第8・9学年	
○けじめのある生活ができる	1 時間を守る	1	・とうこうじこくをまもることができる。		・登校時刻を守ることができる。	
		2	・じゅぎょうのはじまるじこくをまもることができる。		・授業や活動の始まる時刻を守ることができる。	
	2 身の回りの整理整頓をする	3	・くつばこにくつのかかとをそろえて入れることができる。		・ぬいだはき物のかかとをそろえることができる。	
		4	・つくえやロッカーのせいりせいとんができる。	・つくえ、ロッカーの整理整頓とんや協力して教室内の整理整とんができる。	・机、ロッカーの整理整頓や協力して教室内外の整理整頓ができる。	・机、ロッカーの整理整頓や協力して校内の整理整頓ができる。
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする	5	あさ 「おはようございます」 ひる 「こんにちは」 かえり 「さようなら」			
		6	・げんきよくあいさつができる。	・はっきりとあいさつができる。	・気持ちよいあいさつができる。	・時と場に応じて、気持ちよいあいさつができる。
	4 つかいていねいな言葉	7	・「です、ます」をつかうことができる。	・「です、ます」をはっきりと言うことができる。	・ていねいな言葉づかいができる。	・時と場に応じたていねいな言葉や敬語をつかうことができる。
		8	・「ありがとう、ごめんなさい」をすなおにいうことができる。	・「ありがとうございます」「すみません」「ごめんなさい」「失礼します」を場に応じてはっきりと言うことができる。	・相手の気持ちを考えた、やさしい言葉づかいができる。	・相手の気持ちや場に応じたやさしい言葉づかいができる。
○約束やきまりを守る	5 生活のきまりを守る	9	・人のあつまるところでは、はなしをする人の目を見て聞くことができる。	・人の集まるところでは、話をする人の目を見て、しっかりと聞くことができる。	・人の集まるところでは、話をする人の目を見て聞き、集団の場になふさわしい態度をとることができる。	
		10	・ようぐ（ほうき、ちりとり、ぞうきんなど）をたたくことができる。	・友だちと協力して、そうじに取り組むことができる。	・自ら進んでそうじをし、学校をきれいにすることができる。	・進んで掃除や美化活動に取り組む、学校をきれいにすることができる。
		11	・がくしゅうしやすみなりをととのえることができる。		・学校生活になふさわしい身だしなみを整えることができる。	・自らルールを守り、学校生活になふさわしい身だしなみを整えることができる。
○その他	交通安全	12	・道路は、いちどとまって「みぎ・ひだり・みぎ」をかくにんし、手をあげてわたる。 ・じてんしゃは、こうえんなどのひろいばしよで、ほごしやといっしよにれんしゅうする。	・道路は、一度止まって左右の安全をかくにんしてから、手を挙げて渡る。 ・自転車は交通きそくを守って安全に乗る。	・道路を渡るときは、一旦止まって左右の安全を確認する。 ・自転車は交通規則を守って安全に正しく乗る。	・道路を渡るときは、一旦止まって周囲の安全を確認する。 ・自転車は交通規則とマナーを守って安全に乗る。
	健康	13	・早ね早おきをし、ちょうしょくをとる。 ・しっかりとすいみんをとる（めやすとして9じかん）。	・早ね早起きをし、朝食をとり、毎日の生活のリズムを整える。 ・しっかりとすいみんをとる（目安として8時間）。	・早寝早起きをし、3食きちんととり、毎日規則正しい生活をする。 ・睡眠時間を確保する。	



# 遷善館学園小中一貫教育 学習ガイド

内容	項目	いえの人ときょういよくして 第1・2学年	友だちから学んで 第3・4学年	自分から進んで 第5・6・7学年	自分の特色を生かして 第8・9学年
準 備	家庭	・いえの人といっしょにじかんわりをみて、がくしゅうのよいをする。 ・しゅくだいやていしゅつぶつをきめられた日までにていしゅつする。	・自分で時間わりをかくにんし、学習用具を準備する。 ・宿題やてい出物を決められた日にてい出する。		・生活ノートで明日の学習用具を準備する。 ・宿題や提出物を決められた日に提出する。
	授業前	・つぎのじかんのじゅんびをして、休みじかんにする。		・机上に学習の準備を整え、授業の内容を確認し、授業を待つ。	
	着席	・じゅぎょうのはじまるじかんまでに、ちゃくせきする。		・教室移動は速やかに休み時間内に行い、着席する。 ・時間を確認して着席し、静かに待つ。	
あいさつ	授業前後	・しせいをただして「おねがいします」「ありがとうございます」「しゅくだいをげんきよくする。」	・しせいを正して「お願いします」「ありがとうございます」「しゅくだいをはっきりとする。」	・「起立」「礼」の号令に合わせて、「お願いします」「ありがとうございました」などのあいさつを正しくする。	
聞き方	人の話を聞く	・あしはベッタン、おなかとせなかはグーひとつ。	・正しいしせい（せすじをのばす）で聞く。		・必要に応じてメモをとる。 ・正しい姿勢で聞く。
話し方	挙手	・はなす人のはなしがおわったら、ひじをのばしてしっかり手をあげる。 ・こえをださずに手をあげる。	・ひじを伸ばしてしっかりと手をあげる。 ・指名されたら、「はい」と返事をして立つ。		
	発表	・クラスみんなにきこえるこえで、おわりまでしっかりと はっぴょうする。 ・「～です」「～ます」をつけて、はっぴょうする。	・クラス全員に聞こえる声で終わりでしっかりと発表する。 ・伝わりやすい内容で「～です」「～ます」まではっきりと発表する。	・発表する内容を考え、伝わりやすい内容で「～です」「～ます」まではっきりと発表する。	・クラス全員に聞こえる声で、聞き手に分かりやすく話す。 ・「私は・・・だと思います。理由は・・・だからです」と、最後まではっきりと話す。
書き方	ノート	・せすじをのばしてただしくすわり、マスのなかにていねいなもちで、おおきく、つよくかく。	・しせいを正してていねいな文字で書き、大事などころには赤えんぴつや色ペンでしるしをつける。	・正しい姿勢で、板書の内容をていねいに記入し、文字の大きさや色分けを工夫して見やすいように書く。	・正しい姿勢で、丁寧に書く。 ・板書を書き写すだけでなく、大事な所は色分けしたり、メモを書き加えたりするなど、ノートを自分なりに工夫して書く。
家庭学習	宿題	・わすれずにおこなう。	・わすれずに、かく実に行う。	・自主学習の前に工夫して行う。	・自主学習の前に計画的に工夫して行う。
	自主学習	・じかんのめやすとして、1ねんせいは20ぶふん、2ねんせいは30ぶふん ・まなんだことをふくしゅうしてみる。	・時間の目安として、10分×学年+10分 ・復習を習かんにする。	・予習、復習を計画的に進める。	・15分×学年 ・計画を立て、その学習計画に沿って自主学習を進める。 ・自分自身の課題を把握し、予習、復習を継続していく。

## 「サマースクール実施についての中学校・高等学校・大学への案内文中の趣旨説明」

### (1) サマースクールの趣旨

サマースクールを夏休み当初に実施することで、1学期前半の学習習慣を継続させる。プール学習と2交代制で実施することにより、子どもたちは午前中、学校で生活することとなり、これまでの生活習慣を崩さずに夏休み前半を過ごせるようにする。

### (2) 中学生・高等学校生徒・大学生のボランティア補助教員の趣旨

①小学生にとって、年齢の近い大学生に教えていただいたり、赤ペン先生をしていただいたりすることで、親近感をもって、学習に取り組むことができる。

②大学生にとって、小学生の学習支援をすることによって、自分自身の学習に生かすことができると共に、自分自身の将来の生き方を考えるキャリア教育の機会とすることができる。



## 資料5

### 「小中学校の連携した進路学習会」

～中一プロブレムの解消をめざして～

小学校6学年の児童は、中学校一日入学に対して、期待と不安を抱えています。この体験により児童の中学校への進学に対する悩みや不安は、一部解消されますが、さらなる悩みや不安を抱えていきます。そこで、小中学校の連携した進路学習を展開することにより、児童の悩みや不安を軽減させ、中学校への円滑な接続を図ることを目的とし、本学習会を実施いたします。

本学習会は、埼玉県教育行政重点施策Ⅰ「確かな学力と自立する力の育成」や久喜市教育振興基本計画の基本目標2「総合的な人間力」を育成する学校教育の充実」に基づき、積極的なキャリア教育・進路指導を推進するものです。

### 記

1 日 時：平成30年3月1日（木） 13：55～14：40

2 場 所：久喜市立本町小学校 2階 会議室

3 対象学年：第6学年 58名

4 指 導 者：久喜市立久喜中学校 教諭

5 ね ら い

①小学校：6年生の中学校進学に対する不安の解消をめざす。

②中学校：来年度中学校に進学予定児童の小学校で活動の様子等を理解する。

6 指導の展開案

	学習内容	指導上の留意点等
導 入	1 中学校一日入学の感想	・事前に感想を書かせて、全体的な傾向をつかむ。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題</p> <p>「中学校に夢や希望をもって入学するために、悩みや不安を感じていることを、中学校の先生に質問してみよう。」</p> </div>	
展 開	2 事前のアンケート結果の提示	・掲示をして、6年生の児童にとって自分と同じ悩みや不安を感じている友人の存在に気づく。 ・中学校には、事前に知らせて回答の準備をしていただく。
	3 アンケート結果への回答	・児童の質問に対しての回答をいただく。
	4 追加質問	・その後、さらに中学校の教師に質問する。 ・中学校へ入学する前に、心がけ準備しておくべきことについて、ご指導をいただく。
ま と め	5 中学校の教師から小学校6年生へのメッセージ	・中学校に迎え入れる歓迎のメッセージをいただく。
	6 お礼のことば	・代表児童からお礼のことばを話す。

7 事前のアンケート項目

①中学校に進学する上で、どんな夢や希望をもっていますか。

②中学校に進学する上で、どんな悩みや不安を感じていますか。

③中学生になるために、今どんな努力をしていますか。

ところで、各校の年間指導計画を交換し合うことによっても、他校種の学習指導内容を理解することのきっかけとなります。「小中連携」「小中一貫」は、教職員の交流からスタートします。そして、このことが児童生徒にとっての理解しやすく、系統性・発展性のある授業となります。さらには、発展して、児童・生徒の交流に発展してきます。

さて、次の文章に注目してください。「本校では、将来の教員をめざす、大学生のボランティア補助教員が、一週間に23人来ています。」これは、筆者が「幼稚園から大学まで連携して、地域に根ざした学校づくりを推進したい。」生涯学習社会において、校長として着任した小学校での学校経営の理念の実践を紹介したひとこまです。

特に、大学との連携では、サマースクール（夏季休業日中の補習）や授業でのボランティア補助教員としての赤ペン先生やプール学習の補助等によって、小学校の児童にとっては個別の支援の機会が増えたと共に、大学生との係わりをとおり将来の自分自身を考える機会となります。また、大学生にとっては、年下の児童にわかりやすく教えることの大切さを実体験することをとおり、自分自身の将来像を見つめることができます。つまり、教師になりたいという信念を体験から学ぶとともに、授業や学級経営の根底となる児童との人間関係づくり、そして、授業にのぞむ前の教材研究等について学ぶ貴重な機会となります。

現在、大学の教員養成課程の地理学・地誌の担当として勤務していますが、かつて、大学生のボランティア補助教員を積極的に受け入れてきた経験を生かし、「小・中学校へ体験を得に学びに出る大学生」を育成していきたいと考えます。

以上、これらの教育活動の体制づくりの基盤として、校長間のコミュニケーションと相互理解、そして、将来の社会人を育成していく上での共通の理想像の共有化が、教職員間で重要です。

ここに、異校種間での連携・協働を取り入れる意義があるのです。

#### (4)児童・生徒・学生の声の紹介

ここでは、【資料4】で紹介しました「サマースクールに参加した小学生・中学生・高等学校の生徒・大学の学生の感想録の一部を紹介します。「やりがい・新たな気づき・達成感・教師へのあこがれ・将来の夢」などを痛感することができます。

##### ①小学生の児童の声

「サマースクールで、中学生のお姉さんやお兄さ

んに勉強を教えてもらいました。とてもわかりやすかったです。とても優しく教えてもらったので、勉強が楽しかったです。私も中学生になったら、サマースクールで小学校に来て勉強を教えたいです。

「私は、算数の難しい文章の問題が苦手でした。しかし、高校生のお兄さんやお姉さんに、いろいろなヒントをもらい、そうだ、こうすれば答えが出せるのだと解決できました。私もああいう高校生になりたいと思います。

「大学生のお姉さんやお兄さんに水泳を教えてもらいました。今まではバタ足をしてもなかなか前に進まなかったけれど、前に進めるコツがわかりました。水泳が楽しくなりました。」

##### ②中学生の生徒の声

「サマースクールで、久しぶりに卒業した小学校に行くことができました。とても胸がわくわくしていました。小学生に勉強を教えている先生は、大変だなと思いました。なぜなら、難しいことをわかりやすく教えるのは、とても大変なことだからです。

「サマースクールで、赤ペン先生になることができました。私は、将来小学校の先生になりたいので、今回の学習ボランティアに応募しました。問題の解き方がわからない小学生に、できるだけいいヒントに出しました。すると、『わかった！』といって、式と答えを書くことができました。とてもやりがいがあり、絶対に小学校の先生になりたいという夢をかなえたいです。」

##### ③高等学校の生徒の声

「高等学校への通学の途中に、いつも小学校の横を通り過ぎていました。今回、ボランティアの赤ペン先生の案内を知って、ぜひ参加してみたくなりました。それは、将来小学校か中学校の先生になりたいと考えていたからです。そして、サマースクールの赤ペン先生を体験して、先生になりたいという希望をより一層強く感じました。それは、先生の教え方や指示の仕方を知って、真剣に取り組んでいる小学生の姿を見たからです。貴重な機会となりました。来年もぜひ参加したいです。」

「サマースクールの赤ペン先生に参加させていただき、大変ありがとうございました。昨年も参加させていただきました。その経験を生かして、今年は、答えを教えるのではなく、ヒントをたくさん用意できるように心がけようと考えました。そして、先生の指示のように、鉛筆が止まっている児童に、『難しいところがありますか。ヒントを出しましょうか。』と声を



かけました。そこで、事前にイメージしていたアイデアを工夫してヒントを出しました。すると、何度か繰り返すうちに、答えを出すことができました。本当に、教師の仕事は、やりがいのあるものだと感じました。将来、学校の先生になってみたいという夢を強く抱くことができるようになりました。」

#### ④大学生の学生の声

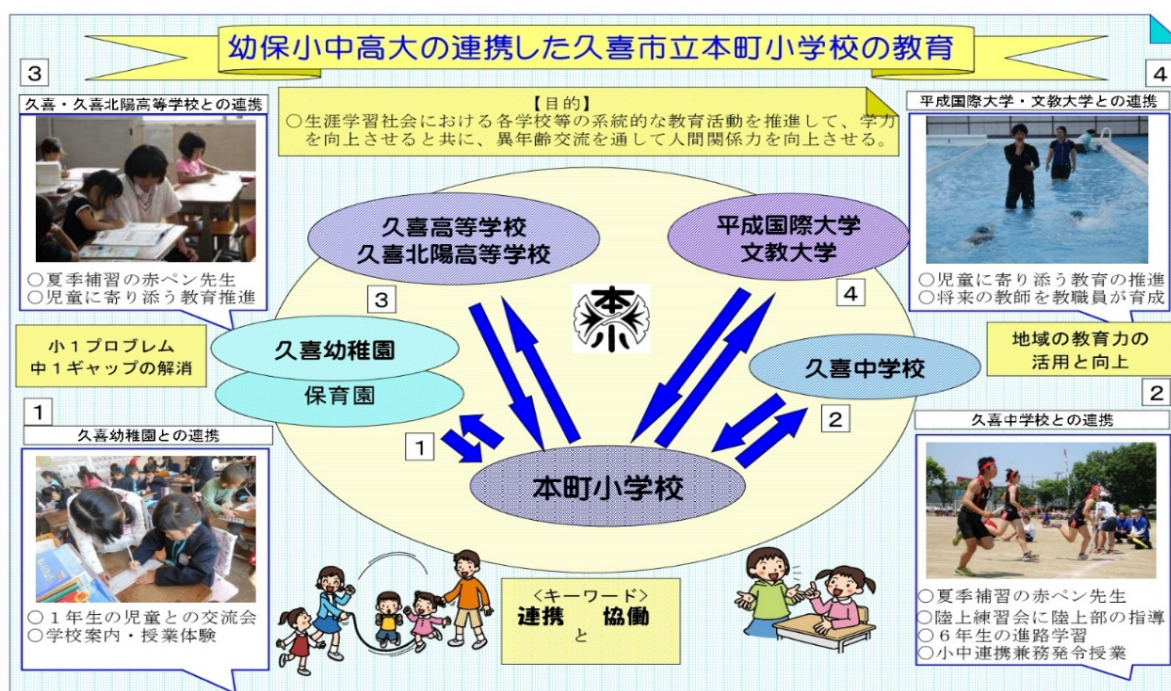
「今回、サマースクールのボランティア補助教員に、赤ペン先生として参加させていただきました。以前にも、大学の授業がない日にボランティア補助教員として、担任の先生のお手伝いをさせていただきました。難しいことを優しく、わかりやすく教えるのは大変なことでしたが、担任の先生の声かけのタイミングや方法をまねてみて、小学生に学習の応援をしてきました。教育実習前に今回のような貴重な経験をさせていただき、ますます小学校の教員になりたい気持ちが

固まりました。」

「私は、サマースクールのプール学習補助を担当しました。水泳は得意で、将来は中学校の体育の教員のなりたいたと考えています。プール学習では、主に低学年の皆さんの担当をさせていただきました。けのび・伏し浮き・バタ足・面かぶりクロールなど、水に慣れることからスタートして、少しずつコツをつかんでいきました。時には、模範演技もやってみて、コツをつかむようにアドバイスしてきました。やりがいがあり、将来の生き方を考える貴重な機会とすることができました。」

以上述べてきました取り組みの実践事例を、「幼保小中高大の連携した久喜市立本町小学校の教育」として、下記のようにまとめた資料を紹介のパフレットとして作成、配付して広報活動を行っています。キーワードは、「連携と協働」です【資料5】。

#### 資料5



これらの教育活動の体制づくりの基盤として、校長間のコミュニケーションとネットワーク、そして、将来の社会人を育成していく上での共通の理想像の共有化が重要です。また、教務主任間での連携と円滑な報告・連絡・相談のための人的・物理的なネットワークの整備が大切です。キーワードは、「連携と協働」と考えます。

#### 4. 成果と課題

「子どもが安心して、入学・進学できるようになってきました。」「子どもが安心して、学校生活や登下校できるようになってきました。」「異年齢とのコミュニケーションが、とりやすくなってきました。」「将来の夢や希望をもつ児童が増えてきました。」これらは、児童の姿を表す感想の一部です。2つの仮設を設

定し、共通の合言葉のもとに取り組んできた成果ととらえることができると考えます。

今後共さらに、「コミュニティー・スクールを基盤として、幼稚園から大学まで連携し、地域に根ざした学校づくり」をとおして、学校と地域が共有し、連携・協働しながらよりよい社会や社会人を育成する取り組みを、現在の立場を通して、多面的・多角的に継続していく所存です。

- 1) 遷善館は 1803 年（享和 3 年）に代官の早川八郎左衛門正紀により創始された郷学である。藩学と寺子屋の中間に位置する郷学という学問所であるため、武士のみでなく主に村民のための教育機関でした。この精神を受けて、久喜市立久喜小学校・久喜市立本町小学校・久喜市立久喜北小学校・久喜市立久喜中学校の 4 校は、「遷善館学園」との名称を活用して、「コミュニティー・スクール」を推進しています。